



平成28年11月11日

各 位

上場会社名 株式会社ロイヤルホテル
代 表 者 代表取締役社長 川崎 亨
(コード番号 9713 東証第2部)
問合せ先 執行役員財務チーム長 坊傳 康真
(TEL 06-6448-1121)

業績予想値と決算値の差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成28年5月13日に公表いたしました平成29年3月期第2四半期(累計)連結業績予想値と本日公表の決算値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、本日、公表いたしました「固定資産の譲渡及び特別利益の計上に関するお知らせ」のとおり、固定資産の譲渡に伴う譲渡益の計上、及び最近の業績動向等も踏まえ、平成28年5月13日に公表いたしました平成29年3月期通期業績予想(連結・個別)を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想値と決算値の差異について

(1) 平成29年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値と決算値の差異 (平成28年4月1日～平成28年9月30日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	19,300	650	400	750	7円32銭
今回実績(B)	19,245	758	403	1,164	11円36銭
増減額(B-A)	△54	108	3	414	—
増減率(%)	△0.3	16.7	0.8	55.2	—
(ご参考)前期同期実績 (平成28年3月期第2四半期)	19,293	551	463	△1,688	△16円48銭

(2) 差異が生じた理由

当第2四半期連結累計期間において、売上高は、概ね予想どおり推移いたしました。

損益面では、営業利益、経常利益は売上同様、概ね予想どおり推移いたしましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益は、近年の業績動向及び今後の業績見通しを踏まえ、繰延税金資産の回収可能性を慎重に検討した結果、前回予想より繰延税金資産が増加したことに伴う法人税等調整額(益)の計上により、前回予想を上回る結果となりました。

2. 業績予想の修正について

(1) 平成 29 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	41,600	2,200	1,800	2,150	20 円 99 銭
今回修正予想 (B)	41,600	2,200	1,800	2,700	26 円 36 銭
増減額 (B－A)	－	－	－	550	－
増減率 (%)	－	－	－	25.6	－
(ご参考)前期実績 (平成 28 年 3 月期)	41,525	2,054	1,770	△423	△4 円 14 銭

(2) 平成 29 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	23,700	1,750	1,550	1,750	17 円 08 銭
今回修正予想 (B)	23,700	1,750	1,550	1,800	17 円 57 銭
増減額 (B－A)	－	－	－	50	－
増減率 (%)	－	－	－	2.9	－
(ご参考)前期実績 (平成 28 年 3 月期)	26,927	1,456	1,187	507	4 円 95 銭

(3) 業績予想値の修正理由

(連結)

当期の業績予想につきましては、売上高、営業利益、経常利益は概ね前回予想どおり推移する見込みであります。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、本日公表いたしました「固定資産の譲渡及び特別利益の計上に関するお知らせ」に記載のとおり、本日開催の取締役会において、経営資源の有効活用の観点から当社保有の固定資産を売却することを決議したことに伴い、固定資産売却益として約 340 百万円を特別利益に計上する見込みであります。また、これにより繰延税金資産が増加したことに伴う法人税等調整額 (益) の計上や第 2 四半期累計期間の業績数値も踏まえ、前回予想 (平成 28 年 5 月 13 日公表数値) を上回る見込みであります。

今回の業績予想につきましては、適時開示基準には該当いたしません。本日公表の「固定資産の譲渡及び特別利益の計上に関するお知らせ」等、重要な決定事項がありましたので平成 28 年 5 月 13 日に公表いたしました業績の予想を上記のとおり修正いたします。

(個別)

個別におきましては、売上高、営業利益、経常利益は前回予想どおり推移する見込みであります。

当期純利益につきましては、連結子会社宛ての貸倒引当金繰入額の増加が見込まれる一方、連結と同様の理由による当期純利益の増加により、前回予想 (平成 28 年 5 月 13 日公表数値) を上回る見込みであります。

※上記の業績予想については、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上